

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明

冬季におけるアサリ減耗状況調査

県北広域本部水産課・高日 新也

【背景・目的・目標（指標）】

現在、水産課では、漁業者が実施しているアサリの増殖活動に活用するため、管内の各干潟漁場において、定期的に資源状況の調査を実施している。

令和3年(2021年)春季から夏季にかけては、管内各地で高密度なアサリ稚貝の発生が確認され、令和4年漁期の漁獲が期待されたものの、令和4年(2022年)春季までに漁獲に結び付いた漁場は少なかった。

そこで、令和4年度は、冬季に管内の漁場においてアサリ稚貝の大規模な減耗が発生していると仮定し、熊本市小島地先において減耗状況調査を実施した。

【普及の内容・特徴】

令和4年(2022年)12月以降、月1回の頻度で熊本市小島地先における稚貝の生息状況を調査した。令和5年(2023年)1月24日に発生した、九州地方の大規模暴風雪の後に調査を実施し、アサリの生息状況を把握した。

また、漁業者がアサリ稚貝の保護を目的として設置している被覆網の状況を併せて調査するとともに、被覆網下(試験区)と被覆網を設置していない対照区における生息状況を調査し、被覆網によるアサリの保護効果を検証した。

【成果・活用】

令和4年(2022年)12月の調査では、各年度の覆砂漁場を中心として広範囲に2分貝の生息が確認され、その生息密度は1,200~2,200個/m²であった。

しかし、令和5年(2023年)1月24日に令和元年度覆砂漁場を調査したところ、2分貝の生息密度が220個/m²に減少しており、12月の結果と比較すると、その生残率は10%であった(図1、2)。

このことから、令和4年(2022年)12月までにこの漁場に広く生息していた2分貝は、令和5年(2023年)1月以降に発生した冬季波浪により散逸したと考えられた。

また、同日に漁業者が設置している被覆網の状況を確認したところ、一部の被覆網に剥がれや消失が見られたものの、多数の被覆網が設置した状態のまま残存していた(図3、4)。

この被覆網下のアサリの生息状況を調査したところ、多数の2分貝の生息が確認され、令和5年(2023年)2月の調査においても、減耗することなくアサリが生息している状況が確認された(図5、6)。

これらのことから、小島地先においては、冬季に波浪によるアサリ稚貝の減耗が発生していることが確認された。また、その減耗に対する対策として、被覆網による保護が効果的であることが確認された(図7)。

【達成度自己評価】

4 目標(指標)はほぼ達成できた(76~100%)

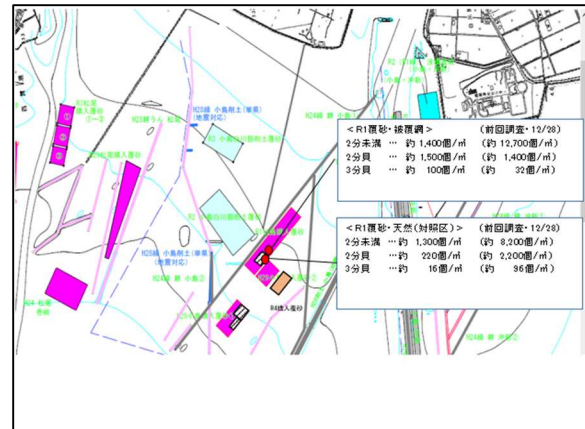
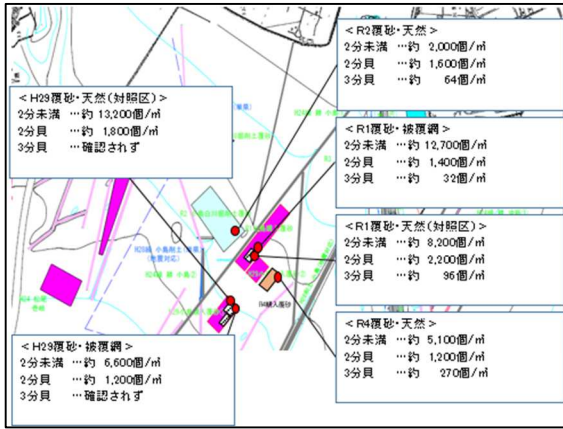


図1 アサリ生息状況 (R4/12/28) 図2 アサリ生息状況 (R5/1/24)



図3 被覆網の状況 (R5/1/24) 図4 被覆網下のアサリ (R5/1/24)

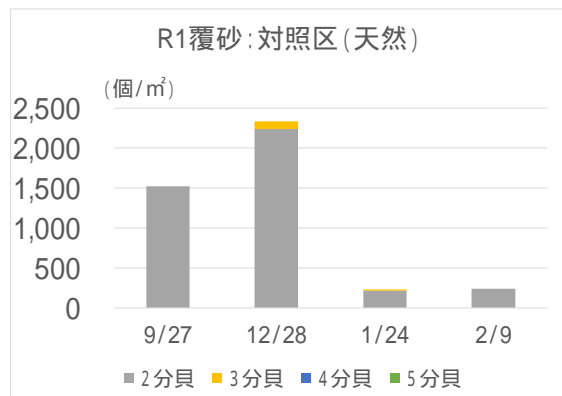
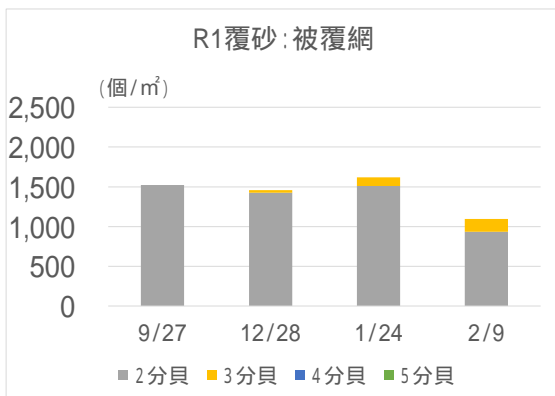


図5 被覆網下の生息密度推移

図6 対照区の生息密度推移

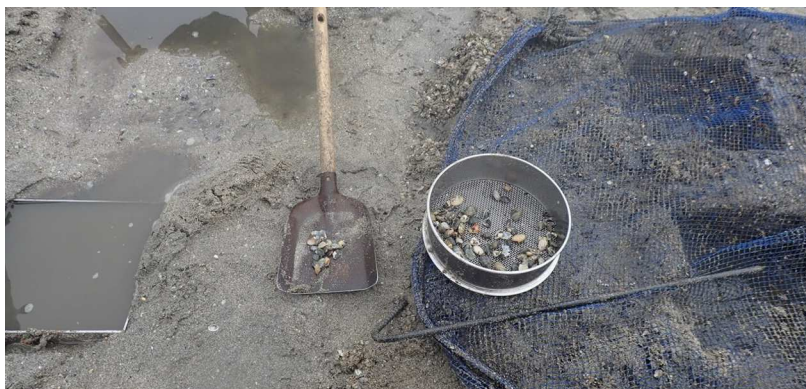


図7 保護効果の比較 (左:保護なし 右:被覆網による保護)